

東京農業大学の見学報告

農地基盤情報研究領域 農地整備グループ 岩田幸良

9月20日、東京農業大学地球環境科学部生産環境工学科の鈴木伸治教授と英国クランフィールド大学のDr.Simmonsが当部門と野菜花き研究部門を見学しました。当日は、野菜花き部門の柳井上級研究員から、イノベーション創出強化研究推進事業で取り組んでいるアスパラガスの枠板式高畝栽培について実際の圃場を観ながら説明があり、従来の栽培方法との違いや我が国の温暖地で標準的に取り組まれている春から秋まで収穫を実施する長期どり作型についてなど、活発な意見交換が実施されました。

圃場見学をした後、当部門の防災棟会議室においてDr.Simmonsを囲んでミニセミナーを開催しました。講演テーマは、「イギリスにおける吸水性ポリマーの利用」についてです。吸水性ポリマーは乾燥地で保水性を向上させるために主に使用されていると認識していましたが、イギリスではポリマーを播種前に散布することでクラスト*の形成を抑制し、苗立ちを高めることで収量が増加することが明らかになっていることを紹介いただきました。講演後、ポリマーを散布した圃場と散布していない圃場の土壌の硬さについて、ならびにポリマーの使用量と生産性のバランスについての質問があり、活発な議論が行われました。

*クラスト: 土壌表面に形成される緻密な薄い層。クラストが形成されると、透水性が低下したり、出芽が阻害される。



野菜花き研究部門のアスパラガス圃場



高畝のサイズや形について議論している様子



Simmons 博士によるセミナーの様子